

静岡県精神保健福祉協会

ニュースレター第8号

巻 頭 言

静岡県精神保健福祉協会 副会長 (溝口病院 院長)

溝 口 明 範

未曾有の大災害、東日本大震災から早くも1年が経ちました。あの津波が押し寄せてすべての物が流される恐ろしい映像は忘れる事ができません。東北地方太平洋沿岸部には過疎になった町が数多く点在しています。避難所には若者よりも多くの高齢者の方たちが避難しているのが目立っていました。今なお寒い東北地方で、仮設住宅に入居しながら心に大きな傷を受けた高齢者の方々が先の見えない孤独な生活を強いられていることを思うと胸が痛みます。また映像には写りませんでしたでしたが地域の生活支援システムが崩壊してしまった中で障害を持った方々は現在どのように生活しているのでしょうか。



震災当時から「がんばろう日本」の合言葉のもとに日本全国また世界中から様々な支援の手が差し延べられましたが、静岡県は「こころのサポートチーム」として岩手県宮古市に精神科医を含む支援チームを継続的に派遣してきました。

津波で家族や家を失った人々は心に大きな傷を受けています。忍耐強い東北の方々はあまり自分から語ることは無いと思いますが、この被災者の方々への精神科的支援は長期間継続的に行われる必要があります。静岡県のサポートチームは他の県よりも長期間にわたって派遣されており今年の3月まで継続されますが、その後も何らかの支援を継続して行えないものかと思っています。

そして一日も早い被災地の復興を願っているとともに、今後も静岡県民として精神的な支援だけではなく、がれきの焼却を含め他にも何が出来るのか真剣に考えてあげるべきではないでしょうか。

こころの健康づくり講演会

精神保健福祉協会では、地域精神保健福祉思想の普及の向上及びその啓発を図り、県民の精神保健福祉の向上を資するため適当と認めた団体に対し、こころの健康づくり講演会開催の支援を行っています。23年度各地で開催された講演会をご紹介します。

『家族による家族のためのピア活動』 ～家族による家族学習会を実施して～

日時：平成23年7月16日（木）

13:30～15:30

場所：ハートケアセンター こころ

講師：吉田町精神保健福祉会「秋桜」

代表 曾根 千鶴子 氏

主催：NPO法人 こころ（島田市）

<講演会の様子>

吉田町精神保健福祉会「秋桜」代表 曾根千鶴子さんを招いて、「家族による家族学習会を実施して」という演題で講演をいただきました。家族学習会は、専門家が行なう学習会と異なり、「体験」「情報共有」「家族同士の会話」「家族自身の回復」に焦点をあてることで、家族にとっては価値のあることなどのお話をいただきました。その後、参加者同士の交流会があたたかな雰囲気の中行なわれました。参加者21名

『うつ・自殺予防について』

～気分障害について～

日時：平成23年9月3日（土）

14:00～15:30

場所：菊川市総合保健福祉センター プラザけやき

講師：服部病院

医師 山名 純一先生

主催：菊川市健康づくり課

<講演会の様子>

健康づくり推進委員など112名の参加により開催されました。

参加者からは、「睡眠のことやお酒の影響などわかりやすいお話でした」「安らぎの場を家庭につくることは、家族にとっても大切なことだと考えました」などの感想をいただきました。

また、講師の山名先生については、「ユーモアとほっこりした話し方には、どこかほっこりさせられました」との声もいただきました。健康づくり推進委員を対象とした今回の講演会では、「精神保健福祉は特別ではない身近なこと」との理解を広くいただいた模様で、今後の地域活動に幅が広がったとの感想もいただきました。

『こころの健康について～お父さん編～』

～うつ病とアルコール依存症～

日時：平成23年9月15日（木）

13:30～15:30

場所：森町保健福祉センター

講師：服部病院

医師 山名 純一先生

主催：森町保健福祉課

<講演会の様子>

町民、民生委員、保健委員、断酒会員など34名の参加により開催されました。

講演では「うつ病の基本症状・随伴症状」や、老年期・児童期などの特徴、家族への注意事項、医療の内容など、働きざかりのお父さん世代への具体的なメッセージをいただきました。

自殺については、現状自殺者が全国で30,000人を上回っている状況や、自殺対策に重要な対策、アルコール依存症と自殺の関係など、専門医としての経験からのきめ細やかな講義が行なわれました。

『こころの健康について～お母さん編～』
～うつ病・産後うつ 睡眠障害 更年期障害～

日時：平成23年9月30日（金）

19:00～21:00

場所：森町保健福祉センター

講師：浜松医科大学准教授

森町病院 診療内科医師

鈴木 勝昭 先生

主催：森町保健福祉課

＜講演会の様子＞

町民、民生委員、保健委員、断酒会員など46名の参加により開催されました。

講演では、「結婚」「育児」「教育」「親の介護」など、ライフステージに応じたストレスと、女性特有の体との関連などから、こころの病気について講演をいただきました。

身近なテーマであり、また、先生は、地元の森町病院で診療を行っており、地域の状況もよくおわかりいただいていることや、参加された方々の現在、将来に大きな関心のテーマであるため、参加者からは非常に好評な講演会でした。

『交流分析』

～エコグラムによる自己分析～

日時：平成23年11月10日（木）

13:30～15:30

場所：三島市立保健センター

講師：NTT 東日本伊豆病院

臨床心理士

八木 阿紀 先生

主催：三島市健康増進課

＜講演会の様子＞

保健委員50人の参加により開催されました。

エコグラムの説明の後、各自が「エコグラム」を記入し、その結果について講師から自己分析等の説明がありました。

心理検査は、「結果の良し悪し」ではなく、自分の状態を確認するためのものであり、今後、「こういうことを意識して日常生活を送ろう」というアドバイスがありました。

また、講師の八木先生は、スクールカウンセラーを行っており、最近の事例から、子どもたちを取り巻く環境や、地域での状況などの解説をいただきました。

『こころの健康づくり講演会』

日時：平成23年11月15日（木）

13:30～15:30

場所：韮山保健福祉センター

講師：MOA奥熱海クリニック

院長 心療内科医師

佐久間 哲也先生

主催：伊豆の国市精神保健福祉会

＜講演会の様子＞

60人の参加により開催されました。

MOA奥熱海クリニックの紹介があり、診療部門のほか健康法部門やフリースクールにおける発達障害児の支援の紹介がありました。

こころの健康づくりには病気の治療だけではなく、教育・文化・生活などを背景とした心身の保養の必要性や、過去と現在の社会環境の状況からみた「こころの病」や、最近の話題である新型うつ病や被災地支援の状況など、身近な話題から地域における「健康都市づくり」のあり方について講義を受けました。

『こころの健康づくり講演会』

日時：平成24年1月27日（金）

19:00～20:30

場所：藤枝市役所

講師：ハートケアセンターこころ

精神保健福祉士

菅原 小夜子氏

主催：藤枝市社会福祉課

＜講演会の様子＞

65名の参加により開催されました。

精神障害者とかかわりについてその人の欠点や異常ではなく、良い資質に注目することが大事。自分のものさしで見ない、要求基準を下げる事、わかろうとする姿勢等が大切とのことでした。

コミュニケーションのとり方は、「片付けて！」と命令口調でするよりも「片付けてもらおうと私は嬉しいな」と伝える方が伝わり方が全然違う等自らの経験談等をおりませ説明しており、大変理解しやすい内容でした。

心の健康フェア2011開催

「心の健康フェア 2011」が、「みんなの和・笑顔の輪・やさしい話」をテーマに、平成23年11月26日（土）から12月2日（金）まで、静岡市民文化会館で開催されました。

県内の病院・施設等や県民の方々など、連日多くの方々に参加をいただきました。

ハートフルアート展



ハートフルアート展は、11月26日（土）から12月2日（金）、同会場4階B・C展示場で開催されました。

病院・社会復帰施設・保健所友の会など19団体が出展しました。バッグ・ニットなどの手芸品や絵画などの作品も力作ぞろいでした。

期間中、病院・社会復帰施設をはじめ、県民の皆さんにも気軽にご覧いただきました。

また、今年初めて会員紹介コーナーを設け、病院のデイケア、ケアホームなどの施設や、作業療法プログラム、納涼祭など日頃の活動の紹介、当協会の歴史や活動の紹介などを行ないました。

さらに3階大会議室では、「バザー・うまいもの市」を開催、3店舗が出展し、焼き菓子、手芸品などの販売を行い、こちらも大好評でした。

最優秀賞を受賞した焼津病院の作品

ハートフルアート展 参加団体

保健所友の会 3団体

（熱海保健所あざみの会 静岡市保健所コスモス会 中部保健所）

病院・社会復帰施設 16団体

静岡市支援センターなごやか

伊豆函南病院 大富士病院 富士心身リハビリテーション研究所附属病院

南富士病院 日本平病院 清水駿府病院 NTT 東日本伊豆病院 第一駿府病院 溝口病院

焼津病院 藤枝駿府病院 菊川市立総合病院デイケア 福田西病院 川口会病院

小笠病院

ハートフルアート展 入賞団体

最優秀賞 焼津病院

会長賞 富士心身リハビリテーション研究所附属病院

和・輪・話賞 日本平病院

ジョイントコンサート



ジョイントコンサートは、12月2日（金）午前11時から午後2時45分まで、同会場中ホールで開催されました。

静岡福祉大学と7つの病院が参加、今年の課題曲「上を向いて歩こう」と自由曲を発表しました。

各団体とも日頃の練習の成果を発揮した、楽しいひとときでした。

また、特別出演として「オレンチェ」のスペシャルライブがありました。

ジョイントコンサートの模様

ジョイントコンサート 参加団体と演目

・各団体課題演目 「上を向いて歩こう」

第一駿府病院 バラが咲いた

南富士病院 大きな古時計

大富士病院 夢の世界を

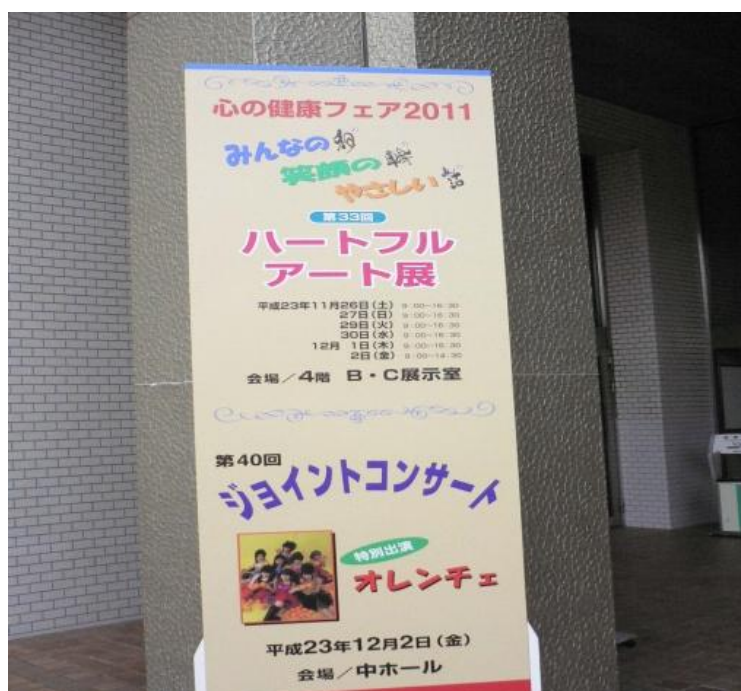
NTT 東日本伊豆病院 イムジン川
イエスタデイ

沼津中央病院 モルダウ

日本平病院 ムーンリバー

富士心身リハビリテーション研究所附属病院
輪になって踊ろう

静岡福祉大学 風になりたい



ジョイントコンサート 入賞団体

最優秀賞 沼津中央病院

会長賞 大富士病院

和・輪・話賞 日本平病院



精神保健福祉協会のパネル展示

ハートフルアート展における、精神保健福祉協会員の紹介コーナーでは、当精神保健福祉協会についても広く県民の方々に知って頂きました。

協会の歴史や、3.11の震災後、県内の精神科医療機関が共同で東北に派遣した「こころのケアチームの活動報告、自死遺族支援の紹介などを展示しました。

期間中義捐金募金箱を設置しました。ご協力有難うございました。

また、静岡県精神保健福祉センターでは、うつ病の早期発見、早期治療のための「睡眠キャンペーン」の広報・周知パネルを展示しました。

<実行委員長から>

昨年の震災より約1年が経過しました。少しでも復興の役に立てればと考え、今年のフェアは静岡県の復興支援の紹介や募金箱の設置をさせていただき、テーマも昨年に引き続き「わ」として企画しました。皆様のおかげで、被災地に義援金も送ることができました。ありがとうございました。

今年も昨年好評のうまいもの市の開催やアート展とコンサートについて表彰を行いました。昨年に比べ、アート展、コンサート共に創意工夫がよくみられ、充実した内容となってきたように感じます。

コンサート最後の「上を向いて歩こう」の全員合唱では、ゲストのオレンチェさんと共にとても大きな声が響いていたのが印象的でした。今年も多くの方の「和、輪、話」に支えられ、無事に大会を終えることができました。

来年も、さらに活気のある「わ」のみられる大会が開催できるように取り組みたいと思います。ご協力していただいた皆さん本当に感謝しております。ありがとうございました。

溝口病院 山中將至

※義援金 4,716円 は、12月26日に静岡新聞社様を通して日本赤十字社様に寄付いたしました。

表彰のお知らせ

平成23年10月25日、福井市に於いて第59回精神保健福祉全国大会

(厚生労働省・日本精神保健福祉連盟主催)が開催され、

静岡県からは次の2名の方が受賞されました。

< 厚生労働大臣表彰 > **おめでとうございます!**

加藤正武 静岡県精神保健福祉協会会長(日本平病院名誉院長)

< (社)日本精神保健福祉連盟会長表彰 > **おめでとうございます!**

坂元義篤 静岡県断酒会理事長





❖ 傾聴スキル習得講座 ❖



鈴木 絹英 先生



自死遺族支援への理解を深めその対応支援方法等の習得の一環として、「傾聴スキル習得講座」を3回シリーズで開催しております。51名の参加申込がありました。

講師はNPO法人ホールファミリーケア協会 代表 鈴木絹英氏

第1回目は1月21日：講座は「自死遺族の現状」「良い聴き手になるために」でした。

人は話を聴いて貰いたい欲求が強い。話す事で生きるエネルギーが湧く、話を聴く事は、エネルギーを湧かす事を助ける。しかし人の話を聴けない。傾聴は一に辛抱二に辛抱。傾聴の信頼関係のパスポートは①アイコンタクト②笑顔③うなづきで日常の中で意識して行動しましょうとのことでした。

講義が判りやすく、楽しくて有意義で次回の講座を期待しているとの感想でした。

❖ 平成24年1月28日「こころの公開講演会」 ❖

「自死がもたらすもの」～たくさんの自死遺族から学んだこと～



石倉 紘子 先生



平成24年1月28日沼津市民文化センターにて一般市民向け講演会を開催しました

こころのカフェきょうと代表の石倉紘子さんを講師にお迎えし、45名の参加がありました。石倉さんは夫を自死で亡くされ「なぜ」「どうして」と2年間自分を責め続け辛く悲しい想いをされました。夫の死を無駄にしたくない、生きる価値がないと思う遺族を1人でも減らしたいと思い活動を始められました。

安心して生きる事が出来る社会を一緒に考え行動しようと言われました。

講演会後に自死遺族の交流会を行い、12名の参加がありました。

短い時間でしたが、それぞれの想いを語り、わかちあうことができました。ご遺族が安心して想いを話せる「わかちあいの場」が重要であることを再認識しました。

TOPIX

国の制度改正から 地域相談支援（地域移行支援・地域定着支援）について

精神科病院に入院する「退院可能精神障害者」を主な対象とする地域移行への支援は、平成19年度より県が実施主体となり「精神障害者地域移行支援事業」により実施してきましたが、「障がい者制度改革推進本部等における検討を踏まえて障害保健福祉施策等を見直すまでの間において障害者等の地域生活を支援するための関係法律の整備に関する法律」の改正事項の「相談支援体制の充実」として平成24年4月1日から障害者自立支援法で個別給付化されることになりました。

これにより、平成24年4月から精神障害者等への地域移行支援・地域定着支援に関する実施主体は各市町となり、対象者の状況に応じて必要と認められる場合に給付が決定されます。給付の詳細については今後の政省令・告示の公布等により追ってお知らせすることになりますが、現在お伝えできる内容を下記のとおり掲載します。

精神科病院に入院する「退院可能精神障害者」への地域移行・地域定着支援は今後各市町により実施されますが、引き続き各精神科病院の積極的な制度利用をお願いします。

(静岡県健康福祉部障害者支援局精神保健福祉班)

地域相談支援（地域移行支援・地域定着支援）（案）

1. 対象者

(地域移行支援)

- 障害者支援施設又は児童福祉施設に入所している障害者
※ 児童福祉施設に入所する18歳以上の者、障害者支援施設に入所する15歳以上の障害者みなしの者も対象。
- 精神科病院（精神科病院以外で精神病室が設けられている病院を含む）に入院している精神障害者。
→ 長期に入院していることから支援の必要性が相対的に高いと見込まれる1年以上の入院者を中心に対象とし、1年未満の入院者については、特に支援が必要な者（例えば、措置入院や医療保護入院から退院する者で、住居の確保などの支援を必要とするものなど）を対象とする。
※ 地域移行支援の支給決定主体については、現行の障害者支援施設等に入所する者と同様に、精神科病院を含め居住地特例を適用。（入院・入所前の居住地の市町村が支給決定）

(地域定着支援)

- 居宅において単身その他の厚生労働省令で定める状況において生活する障害者。
→ 「その他の厚生労働省令で定める状況において生活する障害者」については、家庭の状況等により同居している家族による支援を受けられない障害者とする。
→ 具体的な対象者のイメージは、施設・病院からの退所・退院、家族との同居から一人暮らしに移行した者、地域生活が不安定な者等を想定。
→ グループホーム・ケアホーム、宿泊型自立訓練の入居者に係る常時の連絡体制等については、通常、当該事業所の世話人等が対応することとなるため、対象外。

2. サービス内容

(地域移行支援)

- 住居の確保その他の地域における生活に移行するための活動に関する相談その他の厚生労働省令で定める便宜を供与。
→ 「その他厚生労働省令で定める便宜」は、地域移行のための障害福祉サービス事業所等への同行支援等を想定。→ P95参照

(地域定着支援)

- 常時の連絡体制を確保し、障害の特性に起因して生じた緊急の事態等に相談その他の便宜を供与。
→ 「常時の連絡体制」については、携帯電話による体制によることも可。また、緊急の事態に対して速やかに駆けつけられる体制を確保することが前提。
→ 「その他の便宜」については、緊急訪問、緊急対応等を想定。

平成23年10月31日開催 障害保健福祉関係主管課長会議資料より

平成24年度事業予定

- 1 総会・記念講演会 6月27日（水）
会場：男女共同参画センター「あざれあ」
- 2 こころの健康フェア2012
11月9日（金）～16日（金）
会場：男女共同参画センター「あざれあ」
- 3 第1回常務理事会 4月25日（水）
会場：男女共同参画センター「あざれあ」

静岡県精神保健福祉協会

〒422-8031
静岡市駿河区有明町2-20
静岡総合庁舎 別館3階
TEL&FAX 054-202-1220



E-mail : sizuoka_seisin@ybb.ne.jp

(事務局出勤日 月・水・金の10:00～17:00)